

珠洲郡より舟を發し、太沼郡に還る時に、
長浜の浦に泊まり、月の光を仰ぎ見て作る歌
一首

四〇二九番

珠洲の海に 朝開きして 漕ぎ来れば 長浜の浦
に 月照りにけり

鶯の晩く唄くことを恨むる歌一首

四〇三〇番

うぐひすは 今は鳴かむと 片待てば 霞たな
びき 月は経につつ

酒を造る歌一首

四〇三一番

中臣の 太祝詞言 言ひ祓へ 贖ふ命も 誰がた
めに汝